

「文京区のハザードマップ(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

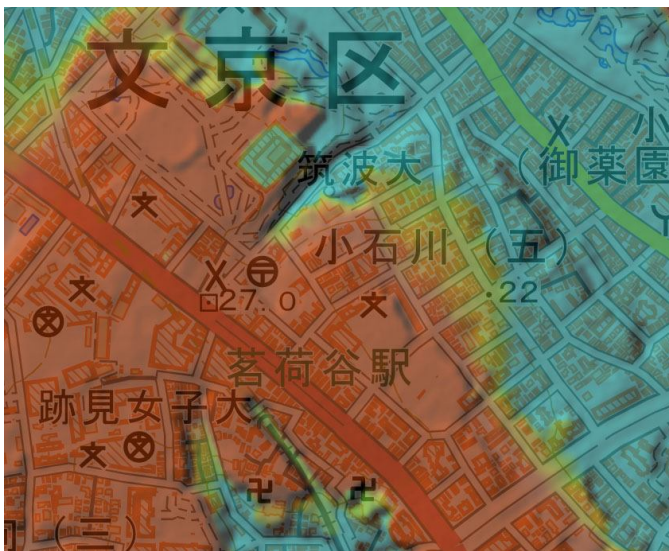
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

私は同じ方法で、自分の住む「小石川五丁目」の地形を調べてみた。文京区は武蔵野台地の東縁に位置しているので、坂が多いため。小石川五丁目も北側に坂が多い。私の住んでいるのは台地上だが、マイバスケット(お寿司8貫370円のスーパー)は台地の下にあるので、いつも「おばけ坂」という坂を自転車で上っている。



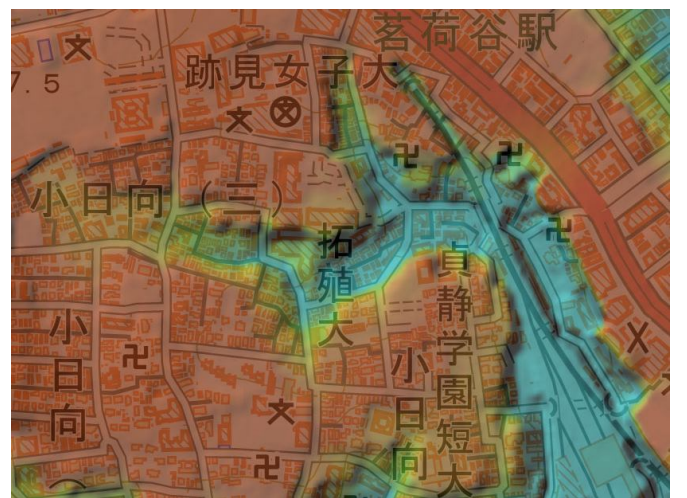
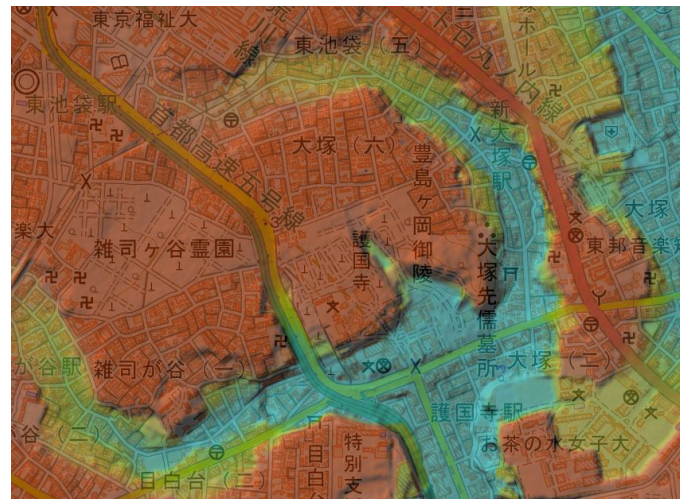
これが小石川五丁目の色別標高図である。台地は茶色、低地は黄緑で表現されている。切り込んだ谷は「湯立坂」の切通しである。



標高による色の付け方を変えると、台地上もゆるやかに傾斜がある地形ということがわかった。



ハザードマップを見ても、台地上と台地の下(小石川低地)では、水害のリスクが大きくちがうことがわかる。私は引っ越す時に、この「台地上か下か」ということを、かなり意識してマンションを選んだ。



同じことは、護国寺駅付近(上図)や茗荷谷(下図)でも言える。このあたりは、浸食谷の源頭部の集水域にあたり、複雑な浸食の地形が残っている。大雨の時は、やはり水害のリスクが高いと言えるだろう。

